

## 繁殖雌牛の臀部皮下脂肪厚と繁殖性の関連

～ 四国カルスト牧場の放牧牛について～

愛媛県畜産試験場

城戸英、檜垣邦昭、岡田栄一

現在、本県では、夏山冬里方式による省力的な和牛繁殖経営を推進しており、姫鶴牧場及び大川嶺牧場の2つの公共牧場が活用されている。しかし、放牧牛の繁殖成績をより向上させるためには、適切な栄養状態を客観的に示す指標を確立する必要がある。そこで、平成16年度に両牧場へ入牧した繁殖雌牛97頭の、臀部皮下脂肪厚(脂肪厚)と栄養度を3回(入牧、中間、退牧)測定し、繁殖性との関連について検討した。授精回数2回以下で受胎した牛は、受胎直前の脂肪厚が10～20mmの範囲にあり、栄養度5であった。不受胎牛及び授精回数3回以上の受胎牛では、脂肪厚20mm以上、栄養度6であった。また受胎牛は、受胎後脂肪厚が増加する傾向にあったが、不受胎牛は退牧時に減少する傾向にあった。なお、舎飼牛の場合、脂肪厚20～30mm、栄養度6～7の範囲で最も短い空胎日数を示したが、放牧牛は舎飼牛と比較して脂肪厚が薄く、栄養度が1程度低い牛が良好な繁殖成績を示すと考えられた。

畜種：牛、分類：畜産技術